佐賀大学教育学部附属中学校

研究NAVI

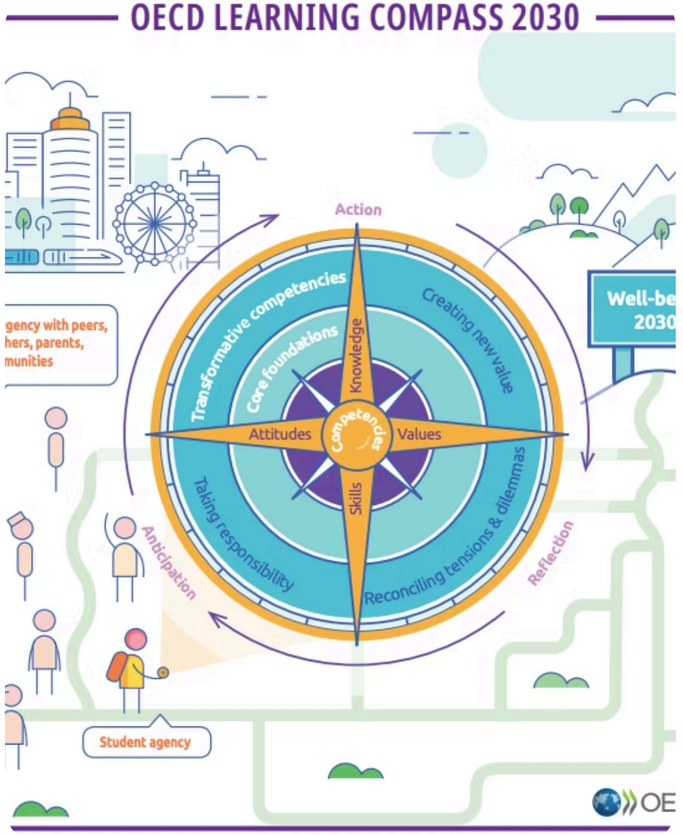
OECDが捉えるエージェンシーとは？

エージェンシーは、OECD Education 2030プロジェクトで提案されたラーニング・コンパスの中核的概念です。

OECDはエージェンシーを

「変化を起こすために、自分で目標を設定し、振り返り、責任をもって行動する能力」と定義しています。

白井は、『世界の教育はどこへ向かうか』の中で、エージェンシーについて、「『主体性』に近いニュアンスを持っていることは間違いなさそうなのである。」と述べています。



エージェンシーの特徴

エージェンシーを考える上で、次の四つの特徴を踏まえる必要があると考えます。



学習可能である。



他者や社会との関係性の中で育まれる。



発揮することで更に高まっていく。



文化的・社会的なコンテクストを前提にした概念である。

佐大附中における エージェンシーとは？①

以上のことをふまえ、佐大附中では、エージェンシーを次のように定義しています。

「ウェルビーイングを目指して、多様な他者と支え合いながら、自分で目標を設定し、振り返り、責任をもって行動し、自分や周囲の状況をより良くしようとする主体性。」

３年間の研究の中で、職員で対話を積み重ねた結果、「ウェルビーイングを目指す」ということがポイントだという結論に至りました。自分の利益だけを考えた独りよがりの行動では、エージェンシーとは言えないのです。ウェルビーイングを目指して行動を起こすことを重視しています。

佐大附中における
エージェンシーとは？②

しかしながら、この言葉で生徒たちとエージェンシーの概念を共有するのは難しい……。そこで、私たちはエージェンシーを発揮するために必要な要素３つを合言葉として設定し、生徒たちと共有することにしました。



やればできる
MIND



自分ゴト化
DOING



やり遂げる
GUTS

佐大附中のウェルビーイングとは？

佐大附中では、ウェルビーイングを「独りよがりではない幸せ」と捉えています。「自分さえよければいい」という考えからの脱却、それこそがウェルビーイングにつながっていくと考えています。

そのために大切にしているのが、「射程を広げる」という考え方です。「今だけ」「自分だけ」の幸せから、「今も未来も」「自分も他人も」の幸せに射程を広げていくことを目指しています。



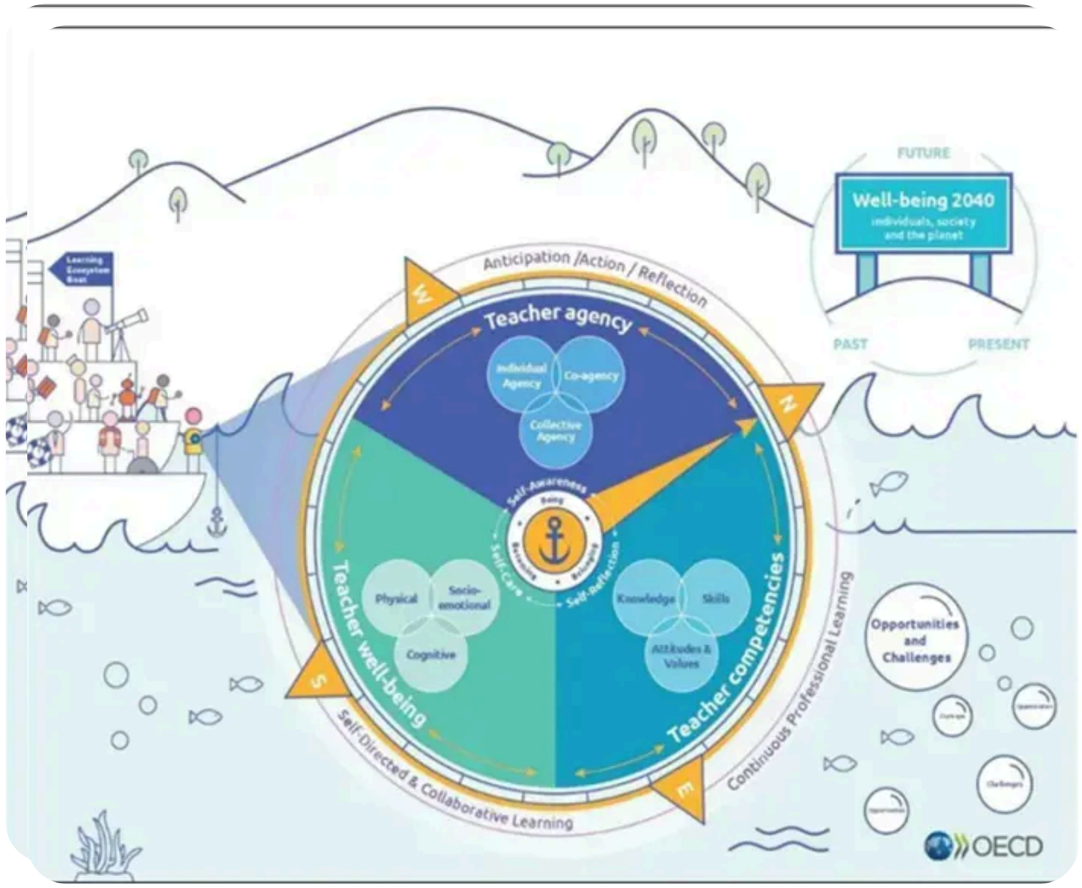
AARサイクルとは？

Anticipation（見通し）
Action（行動）
Reflection（振り返り）
の学習サイクル。
ある程度見通しが立ったらやってみて、修正をくり返しながらゴールに向かっていきます。
失敗を恐れない心が必要です。



教師エージェンシーとは？①

2025年にOECDからティーチングコンパスが提示されました。
教師のエージェンシーとしては、個人のエージェンシー、共同エージェンシー、集合エージェンシーという三つが示されています。
生徒がエージェンシーを発揮するためには、教師もまたエージェンシーを発揮しなくてはならないということです。



教師エージェンシーとは？②

佐大附中では、教師のエージェンシーの中でも生徒のエージェンシーを引き出す「共同エージェンシー」を重視しています。そのために次の三つのことを重視しています。



教師と生徒が一緒に考え、一緒に創るプロセスを重視する。



生徒に裁量権や選択の余地を与える。



対話を通して生徒の考えを引き出す。

エージェンシーと学校教育目標はどういう関係？

本校の学校教育目標とエージェンシー。一見すると無関係で別々のものに見えるかもしれません。しかし、この２つは実は重なる部分が大きいのです！
本校で育成を目指す次世代リーダーって、VUCAの時代を切り拓いていくリーダーであり、ウェルビーイングに向かって行動していけるリーダーなんです。だから、次世代リーダーになるためには、エージェンシーが必要なんです。
本校では、**エージェンシーを育成していくことと、学校教育目標を実現していくことは同じこと**なのです。

学校教育目標

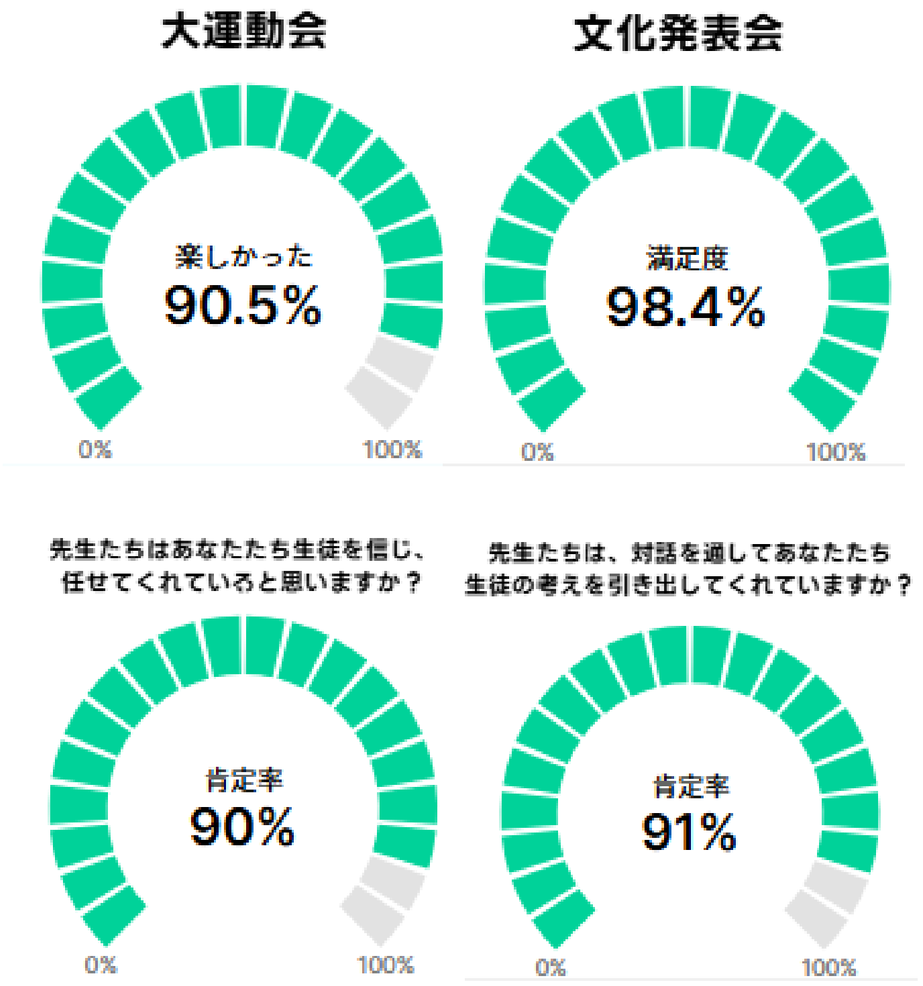
本校の使命に応じて、高いレベルで自律し、共同することができる次世代リーダーを育成する。



エージェンシー

ウェルビーイングを目指して、多様な他者と支え合いながら、自分で目標を設定し、振り返り、責任をもって行動し、自分や周囲の状況をより良くしようとする主体性。

研究に取り組んで生徒と教師はどう変わった？①



左のグラフは、生徒アンケートの結果です。研究に取り組んで一番変わったのは、学校行事の満足度だと思います。それはウェルビーイングな方向に学校行事が変わったからだと言えるでしょう。

また、生徒は教師のことを「信じて任せてくれる」「対話を通して考えを引き出してくれる」存在としてくれていますが、教師の意識が変わったのが一番大きな変化かもしれません。

研究に取り組んで生徒と教師はどう変わった？②

生徒や教師はインタビュー等で次のように語ってくれました。

やってみるのもありかもしれない。やればできそう。

修学旅行実行委員生徒Aインタビュー　紀要Ｐ．22

やろうと思ったらなんでもできそう。

文化発表会実行委員生徒Ｅインタビュー　紀要Ｐ．21

この附属中学校では、「わからない」と感じることも「違う」と考えることも、学びの出発点として大切にされます。

新入生歓迎の言葉　紀要Ｐ．22

慣れないうちは先に言ってしまうこともあったけど、聞くようになったかな

２年学年主任教師Bインタビュー　紀要Ｐ．25